問 五霞町農業の活性化について
答 農家の育成支援を行っていく

青木　武明 議員

問　夏の天候が好天に恵まれ、稲の作況指数が全国平均で１００を超え、豊作と言われております。農家にとっては、米の価格が下落するという大変厳しい状況となっております。稲作農家の悲鳴が聞こえています。国の農業政策の失敗がこうさせたと言っても過言ではないと私は考えます。

　五霞町の農業を今後どう振興していくのか伺います。

町長　自民党政権下では土地利用集積、認定農業者の育成、集落営農組織づくり、これらを進めてきました。そして民主党政権になると小規模でも農業所得補償等、前向きに地域農業を活性化していくには非常に方向性が見いだせないのが自治体の現状ではないかと考えられます。また、国の戸別所得補償制度、水田利活用事業など国の施策にのっとって農家の方に一つでも有利になるように説明会等で生産調整を是非やって頂くよう進めていきたいと考えております。

問　カントリーエレベーター（※①）は町の農業に欠かせない施設であります。しかし、耐用年数が過ぎて老朽化が進み、大きな故障も想定されます。ライスセンター（※②）方式への移行は検討されているのか伺います。

町長　建設後35年が経過して非常に老朽化が進んできているということで、これはいつ壊れてもおかしくないという状況でございます。そういう中で、今後の方式としては、ライスセンター方式、これらの移行も含めて、検討を進める必要があります。また、事業を運営していただいております、茨城むつみ農協とともに協議をしながら進めていきたいと考えております。

問　町の農業の活性化に「道の駅ごか」の農産物直売所を今後どう生かしていかれるのか伺います。

町長　現在の町農業につきましては、平成17年４月、オープンした道の駅を拠点施設として少量多品目産地への転換がなされてきているというところです。道の駅につきましても首都圏50キロ圏に位置しておりまして、茨城県の西の玄関口として都市と地方を結ぶ出入口の休息ポイントとして、飲食、情報、交流促進と農業分野だけでなく、町の活性化を図る有意義な施設となっております。

問　道の駅直売所は町の多くの農家の方が参加できるように少量多品目の出荷が出来ることが望ましい姿と思うが現状をどう考えるか。また、他市町の方が一人で大量の出荷をするのは町の農家の活性化につながっていかないのではないか。

町長　確かに少量多品目、これが一番お客さんが求める部分だろうと思われます。また、他市町の農家の方が大量の出荷をしてしまうと、非常に大きく影響しようかと思われます。これら中身については検討委員会に出して頂いて委託している農協を交えて今後十分、農協の方にもしっかりした対応をお願いしていきたいと思っております。

問　町には五霞町生産組織連合会があると思うが、組合員の高齢化の現状はどうなっているか伺います。

産業課長　五霞町生産組織連合会に加盟している米麦を主体とした生産組織は19団体あります。そのうち、休止状態に追い込まれているような団体もあると聞いています。また、特に既存組織の集落営農組織への移行を重点に、県をはじめ、関係機関との連携を図って、育成支援を行っていきたいと考えております。

問　一方で、個人が大規模に委託を受けて経営を行っている方が徐々にではありますがでてきておりますが、こういう個人に対して町の支援が出来ないか考えを伺います。

町長　個人に対する公的資金の融資が少なくなってきて、その中の一つ近代化資金ですが耕作面積など非常に枠が厳しくなってきてしまったので、私は、担当である農協が窓口を広げて低金利で農家の育成支援に努めていただけることがいいのではないかと考えております。

※①・・・稲刈りをした「もみ」を乾燥・調製しサイロに保管し、米が必要な時にもみ摺りをして米を出荷する施設。
※②・・・「もみ」の荷受から乾燥・もみすり・選別・出荷という４段階に低温貯蔵を行う方式。